

次の10年へ 新たな「まちづくり」に挑戦

改革の歩みを止めることなく

新年のご挨拶



小松紀夫議長

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、平成29年の輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。議会を代表し、謹んでご挨拶を申し上げます。

新たな年を迎え、昨年を振り返ってみますと、昨年は香美市が誕生して10年の節目の年で、各地で10周年の記念行事が開催されたことでした。



そこで、平成18年3月に施行された町村合併後の10年間に想いをめぐらせてみますと、本庁舎や支所庁舎、また、消防庁舎の建設や、小中学校をはじめとする公共施設の耐震改修工事等、ハード部門の充実に力を入れてきたこと、また一方では、住民の皆様の融和が図られた期間であったとの感がございます。

この当初の10年間で、貴重な土台として、次の10年間は、新たな『まちづくり』に挑戦する期間としなければならぬと心に刻むところでございます。

また、議会におきましては、合併後4年が経過した平成22年から、旧態依然とした議会活動では、合併新市の皆様の多様なニーズに応えることはできないとの思いから、議会の改革に着手してまいりました。市民の生の声を直接お聞きしたいとの観点から、年間24カ所での議会報告会をはじめ、『議会の活性化』『開かれた議会』を目指し、さまざまな取り組みを実施することによって、一定の評価もいただきました。



物部支所新庁舎完成

りはありません。その歩みを止めたときから、市民の皆様の信頼に応えることはできないと考えております。

新たな年、平成29年は、国際情勢が日本に大きな影響を与える可能性があります。好影響は、なかなか地方に波及しにくいものですが、悪影響は短期間で隅々まで波及するものですから、動向を注視していかなければならないと考えています。

また、地方共通の課題であります少子化、高齢化、そして人口減少です。

最後に、本年が市民の皆様にとって幸多き年でありますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。